

# ワーキンググループ報告

資料 2-2

令和 8 年 1 月 27 日

第 3 回 男女共同参画推進会議・

女性活躍推進協議会

## ■開催目的

次期プランを策定するにあたり、基本構想・基本計画の理念「誰もがいつでも主役 ジェンダー平等の実現」のとおり、あらゆる施策においてジェンダー平等の視点を意識した取組を推進するため、ジェンダー主流化の観点からどのような取組ができるかアイデア出しを行い、実践につなげる契機とするため、ワーキンググループを開催した。

## ■開催概要

	第 1 回	第 2 回	第 3 回
日時	令和 7 年 11 月 28 日 (金)	令和 7 年 12 月 12 日 (金)	令和 7 年 12 月 23 日 (火)
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>●概要説明</li><li>●特別研修「ジェンダー主流化を学んで施策に活かそう！」</li></ul> 【講師】萩原なつ子氏（独立行政法人 国立女性教育会館 理事長）	<ul style="list-style-type: none"><li>●レクチャー</li><li>●豊岡市事例紹介</li><li>●ワークショップ</li><li>●中間発表</li><li>●講評</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●ワークショップ</li><li>●発表</li><li>●講評</li></ul>
参加者	〈ワーキンググループメンバー〉 11 名 〈管理職職員〉 39 名 〈その他職員〉 18 名  計 68 名	企画課、人材育成担当課、防災危機管理課、区民活動推進課、生涯学習・スポーツ課、産業振興課、観光課、環境政策課、福祉総務課、健康推進課、子ども若者課、都市計画課、土木管理課、公園緑地課、指導課  計 15 名	

# 1. 第1回ワーキンググループ

## 概要

ジェンダー主流化に関する理解を深め、今後の施策立案及び組織運営に資することを目的として、特別研修「ジェンダー主流化を学んで施策に活かそう！」を実施した。主な内容は下記のとおり。

- ①ジェンダー平等の歴史的背景
- ②ジェンダー平等の必要性
- ③ジェンダー主流化の手法
  - ジェンダー統計
  - ジェンダー予算
- ④ジェンダー主流化のプロセス
- ⑤先進的な自治体事例の紹介
  - 豊島区
  - 兵庫県豊岡市
  - 埼玉県
  - 山梨県

**全職員  
対象**


**令和7年度特別研修**

## ジェンダー主流化を 学んで施策に活かそう！

令和7年3月に策定された基本構想・基本計画の理念である「誰もがいつでも主役」ジェンダー平等の実現に向け、これまで以上に、あらゆる施策においてジェンダーの視点を意識した取組を推進していく必要があります。

この機会に本研修を受講し、ジェンダー主流化を学んで、施策に活かしましょう。

---

<b>日時</b> 11月28日（金） 14時半～16時半	 <b>講師</b> <b>萩原 なつ子</b> はぎわら なつこ
<b>実施方法</b> オンライン	
<b>お申し込み</b> 11月21日（金）までにメール本文記載のリンク先より、所属、氏名を入力してお申し込みください。	

---

**その他**  
サービスの取扱いは「研修」です。  
研修受講命令通知は省略いたします。

独立行政法人国立女性教育会館理事長  
お茶の水女子大学大学院修士課程修了。博士（学術）。（経）トヨタ財団アシリエイト・プログラムオフィサー、宮城県環境生活部次長、武蔵工業大学助教授、立教大学教授等を経て2022年4月より現職。また、2014年に「消滅可能性都市」と指摘を受けた本区で子育て世代や働く若い女性の視点でのまちづくりの政策調査を行った「としまF1会議」座長を務めた。現在は立教大学名誉教授、NPO法人日本NPOセンター理事、中央教育審議会委員等を務める他、兵庫県豊岡市地域啓発推進アドバイザー、山梨県男女共同参画推進アドバイザー等、地域の男女共同参画推進にも尽力している。主な共著に『としまF1会議』（生産性出版）

## 2. 第2・3回ワーキンググループ

### 概要

第2・3回ワーキンググループでは、各分野についてグループワークとワールドカフェ方式による意見交換を実施した。

※メンバーのアイデアを下表の「現状・課題」と「対応策（区の取組）」にまとめている。

### ○地域防災分野

現状・課題	対応策（区の取組）
<p>【防災対策】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 女性の視点からの防災対策が求められる。</li><li>2 女児、若年女性、子育て世代の女性、障害を持つ女性、外国籍の女性など、様々な立場の女性の意見を反映できていない。</li></ol> <p>【避難所運営】</p> <p>≪運営主体≫</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 避難所での適切な役割分担が求められる。</li></ol> <p>≪女性、多様な性自認・性的指向の人々への配慮≫</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 仕切りがない、男女共用トイレ、授乳室の確保、同性パートナーへの対応などプライバシーの確保に課題がある。</li><li>2 運営者側の生理に対する知識不足や生理用品の配付方法など女性特有の課題がある。</li></ol>	<p>【防災対策】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 「女性の視点から見た防災 PT（プロジェクトチーム）」の意見を積極的に取り入れる。</li><li>2-1 各関連部署・関連団体とも連携し、ワークショップや研修などを開催し、多様な意見を把握し防災対策に反映させる。</li><li>2-2 子どもの声をひろう例として、防災に力を入れている中学校と連携し、中学生の防災リーダーを養成する。</li></ol> <p>【避難所運営】</p> <p>≪運営主体≫</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 町会などと連携し、避難所での適切な役割分担を呼びかけるとともに、地域の多様な女性リーダーを増やしていく。</li></ol> <p>≪女性、多様な性自認・性的指向の人々への配慮≫</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1-1 避難所の開設・運営時に多様な人々の視点を反映させ、プライバシーの確保に努める。</li><li>1-2 性暴力防止ポスターを作成するなど啓発も</li></ol> <ol style="list-style-type: none"><li>2 運営主体に女性が参画する。</li></ol>

## ○まちづくり分野

現状・課題
<p>【自転車や駐輪場】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 駐輪場が地下にあることが多く、閉鎖的で怖く感じる。</li><li>2 古い施設が多く自動スロープがない駐輪場があり、電動自転車やチャイルドシートを付けた大型自転車は上り下りしにくい。</li><li>3 大型自転車は場所をとるため、2段ラックの場合、重くて上段に上げられない、そもそも対応していない等があり、専用の駐輪スペースも少なくすぐに埋まってしまい駐輪場に止めることが出来ない。</li></ol> <p>【公衆トイレ】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 建築年数が経っているところもあり、女性トイレが汚い。</li><li>2 公園における建蔽率の制限により、個室を要する女性用トイレは面積をとるため、設置数が少なく、待ち時間が生じる。</li><li>3 古い男性用トイレは目隠し板のみで斜めから見えてしまい、プライバシーが確保されない。</li></ol> <p>【道路】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 狭い道や暗い道が多く、女性一人で歩くのが怖い。</li><li>2 大阪万博の屋根リングのように、歩いて楽しめる“道路”が区道には少ない。</li></ol>

対応策（区取組）
<p>【自転車や駐輪場】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 駐輪場における防犯カメラの設置等によるセキュリティ向上</li><li>2 施設の構造を考慮した上での自動スロープの設置やエレベータの設置検討</li><li>3 大型自転車占有スペースの拡充</li></ol> <p>【公衆トイレ】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 トイレの清掃回数の増加、便座と接触する必要がある女性用トイレにおけるアルコール消毒や、紙シートの設置</li><li>2 R4条例改正において2,500㎡未満の公園における建蔽率が2%から5%へ改正。今後新設するトイレは、女性専用のトイレを増設する。</li><li>3 男性専用トイレの個室化</li></ol> <p>【道路】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 路上における防犯カメラ増設によるセキュリティ向上</li><li>2 グリーン大通りのリビンググループのように楽しめる道路を増やすことにより道路の安全性の向上につなげる。</li></ol>

## ○福祉・健康・子育て・教育分野

現状・課題
<p>【福祉・健康】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護分野で固定的性別役割分担意識が強い。</li> <li>2 男性の更年期は理解されづらい。</li> <li>3 男性の健康にも支援が必要</li> <li>4 予期せぬ妊娠への支援が必要</li> </ol> <p>【子育て】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 男性の子育てに関する相談も増加しており、男性の子育て支援が必要</li> <li>2 子どもの生理について、父子家庭だとサポートが難しい。</li> <li>3 男性トイレにおむつ替えスペースがないことがある。</li> <li>4 おむつ替えスペースが授乳室内にある施設があり、男性が利用しにくい。</li> </ol> <p>【教育】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 メディア等の影響により幼少期からアンコンシャス・バイアスが生じている。</li> <li>2 子どものころから、人権配慮の観点からの性教育が必要</li> </ol>

対応策（区取組）
<p>【福祉・健康】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、2 固定的性別役割分担意識や男性の更年期など男性特有の健康課題について、区の情報誌等に掲載し、理解促進を図る。</li> <li>3 男性特有の健康課題についての講座の開催</li> <li>4 予防としての性教育の充実、支援制度や相談先の周知拡大</li> </ol> <p>【子育て】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 男性相談員増</li> <li>1-2、2 子育て支援に関するリーフレット等の活用や、父親と子どもと一緒に楽しめる体験型イベントなど、男性が参加しやすい子育てイベントの開催</li> <li>3、4 男性トイレ内や授乳室と分離させてのおむつ替えスペースの設置</li> </ol> <p>【教育】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 教職員を対象とした研修の実施</li> <li>1-2 児童生徒を対象とした気づきの機会の提供</li> <li>2-1 保護者も対象とした幼少期からの包括的性教育の実施</li> <li>2-2 デートDV予防教室の対象拡大</li> </ol>